

社会資本総合整備計画 【平成26年～令和元年度】

事後評価シート

- ・御代田地区都市再生整備計画事業(平成26年～令和元年度)

令和2年2月

長野県 御代田町

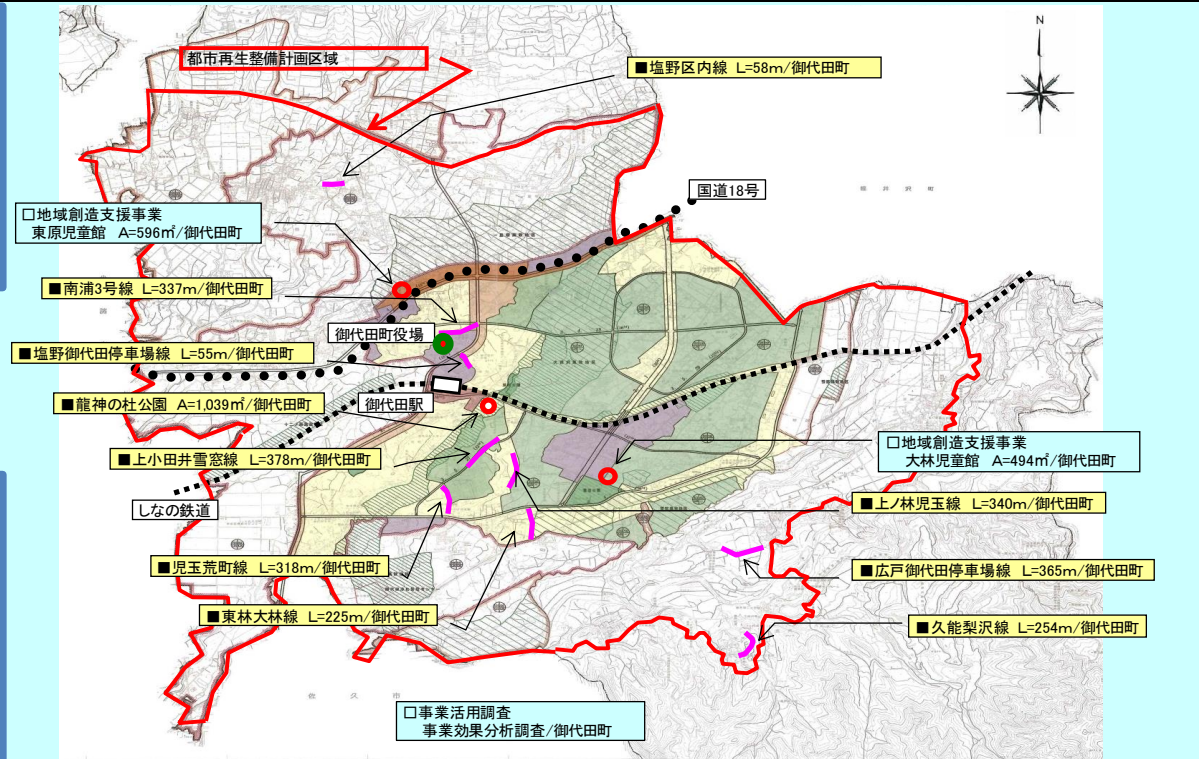
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	御代田町	地区名	御代田地区	面積	2.168ha					
交付期間	平成26年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	1,482.3百万円(第6回変更)							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(塩野御代田停車場線、塩野区内線、上小田井雪窓線、上ノ林児玉線、久能梨沢線、南浦3号線、広戸御代田停車場線、東林大林線、児玉荒町線)、公園事業(龍神の社公園)									
		提案事業	地域創造支援事業(東原児童館、大林児童館)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路事業(上ノ林大久保線②、三ツ谷清万線、中電西駒込線)	代替路線の整備方針の決定、地元地区の要望路線の変更等		「指標1」通行の安全性と防災性など総合的な道路環境の満足度:13.0%→12.4%						
		提案事業	なし	-		-						
	新たに追加した事業	基幹事業	なし	-		-						
		提案事業	なし	-		-						
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響あり「指標3:児童館の年間利用者数合計」:52,800人→52,900人								
変更	平成26年度～令和元年度											
2)社会資本総合整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	通行の安全性や防災性など総合的な道路環境に対する満足度	%	9.0	H25	12.4	R1	9.8	△	あり	通勤通学及び各地区の避難施設までの歩行者の安全性の確保、災害時の緊急車両の通行を確保するため、道路整備を行った。道路整備した周辺住民からの評価は得られたが、町内全体に影響する幹線道路ではなかったため、町民の認識度が低く目標値を達成する回答は得られなかった。しかし、防災施設の整備(道路整備)が実施できたことや、アンケート調査の「満足である」と「どちらかといえば満足である」の回答者数は約6割を占め、過半数以上が満足しているという結果を得られたことから、一定の効果があったと判断している。	R6.10
	指標2	御代田町総合防災訓練参加者数	人/年	360	H24	400	R1	550	○	あり	防災施設の整備(道路整備)を行ったことが、住民の防災意識・活動啓発効果につながり、総合防災訓練の参加者数が増加した。	-
	指標3	児童館の年間利用者数合計	人/年	48,000	H24	52,900	R1	102,941	○	あり	児童館整備により、児童館の機能やレクリエーション施設が充実した。児童館を整備したことにより、児童クラブで高学年を受け入れる態勢が整ったことから、平成28年度に大林児童クラブ、平成29年度に東原児童クラブの高学年受け入れを実施したため、児童館の年間利用者数合計は目標値である52,900人を50,041人上回った。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値(比較値)	基準年度	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし	実施した	実施しなかった	●							
	住民参加プロセス	なし	実施した	実施しなかった	●							
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	実施した	実施しなかった	●							

様式2-2 地区の概要

御代田地区(長野県御代田町)社会資本総合整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 充実した子育て環境の形成と多様な世代が安心・安全に暮らせるまちづくり 目標①: 安心して通行できる交通体系の構築 目標②: 災害に強い安全なまちづくり 目標③: 子どもがいいきと育つまちづくり	通行の安全性や防災性など総合的な道路環境に対する満足度	%	9.0	H25	12.4	R1	9.8	R1
	御代田町総合防災訓練参加者数	人/年	360	H24	400	R1	550	R1
	児童館の年間利用者数合計	人/年	48,000	H24	52,900	R1	102,941	R1



凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備により、歩行者の安全な通行及び災害時における緊急車両の通行が確保された。 ●公園整備により、園路の舗装がされたため、子供たちが安心安全に利用することができる環境が確保された。 ●児童館整備により、児童館施設の機能及びレクリエーション施設が拡大・充実化され、平成28年度に大林児童館、平成29年度に東原児童館が高学年の受け入れを開始したため、子供たちがいいきと育つことができる環境が確保された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ●より安全で快適な道路環境の形成を図るため、未整備・未改修道路の整備を促進する。また、より効果を高めるため、重要度と緊急性の高い路線に対して重点的に投資をし、早期の課題解決を図る。 ●児童館や公園などの長寿命化を図るとともに、機能向上を図る。 ●御代田駅周辺の利便性を向上させ、賑わいを創出するため、御代田駅周辺の再整備について検討を行う。 ●民間活力(民間企業等)との連携により、各種イベントを開催して、関係人口の創出を図る。

社会資本総合整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 社会資本総合整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 社会資本総合整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 社会資本総合整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 社会資本総合整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		「指標1: 通行の安全性や防災性など総合的な道路環境に対する満足度」: 13.0% 「指標3: 児童館の年間利用者数合計」: 52,800人/年	「指標1: 通行の安全性と防災性など総合的な道路環境に対する満足度」: 12.4% 「指標3: 児童館の年間利用者数合計」: 52,900人/年	指標1については、整備路線の減少により、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。 指標3については、事業交付期間を平成30年度から令和元年度に変更したため、52,900人/年に変更した。
D. その他()		●			

添付様式1-② 社会資本総合整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	塩野御代田停車場線	127.7	L=100m	38.0	L=55m	延長が短縮したことに伴い、事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	塩野区内線	82.0	L=120m	40.8	L=58m	延長が短縮したことに伴い、事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	上小田井雪窓線	381.4	L=400m	338.7	L=378m	延長が短縮したことに伴い、事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	上ノ林児玉線	278.5	L=300m	112.4	L=340m	事業完了に伴う事業費精査により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	久能梨沢線	256.0	L=250m	147.1	L=254m	事業完了に伴う事業費精査により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	上ノ林大久保線②	6.4	L=20m	-	-	代替路線東原西軽井沢線の整備方針を変更したため、事業を削除した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	-	-
道路	南浦3号線	140.0	L=320m	244.3	L=337m	幅員を拡張したことに伴い、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	広戸御代田停車場線	41.7	L=250m	45.1	L=365m	延長が増加したことに伴い、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	東林大林線	40.2	L=250m	41.7	L=225m	事業完了に伴う事業費精査により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
道路	三ツ谷清万線	143.2	L=300m	-	-	用地交渉の目的がつかなかったため、事業を削除した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	-	-
道路	中箆西駒込線	103.4	L=250m	-	-	地元区の要望の変更により、川原田寺沢線の整備が決定したため、事業を削除した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	-	-
道路	児玉荒町線	88.5	L=150m	107.4	L=318m	延長が増加したことに伴い、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約0.6%減少となるため、「指標1 通行の安全性と防災性などの総合的な道路環境に対する満足度」の数値目標を0.6%減少させ12.4%に変更した。	●	
公園	龍神の杜公園	15.1	A=1,000㎡	16.0	A=1,039㎡	園路・広場の舗装の面積を変えたことにより、事業費が増加した。	「指標3 児童館の年間利用者数合計」に影響するが、本事業増減による影響はない。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 社会資本総合整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	%	地区住民(1,000人)に対し、令和元年10月に「総合的な道路環境」に対する満足度のアンケートを実施し、計測する。	-	-	9.0	H25	12.4	R1	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ●	9.8	事後評価	△		
指標2	人/年	平成30年9月の時点の御代田町総合防災訓練参加者数を計測する。	-	-	360	H24	400	R1	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	550	事後評価	○		
指標3	人/年	平成31年3月時点の児童館の利用者数合計を計測する。	-	-	48,000	H24	52,900	R1	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	102,941	事後評価	○		
指標4									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	通勤通学及び各地区の避難施設までの歩行者の安全性の確保、災害時の緊急車両の通行を確保するため、道路整備を行った。道路整備した周辺住民からの評価は得られたが、町内全体に影響する幹線道路ではなかったため、町民の認識度が低く目標値を達成する回答は得られなかった。しかし、防災施設の整備(道路整備)が実施できたことや、アンケート調査の「満足である」と「どちらかといえば満足である」の回答者数は約6割を占め、過半数以上が満足しているという結果を得られたことから、一定の効果があつたと判断しているため△とした。	以前の調査と回答者が違うこと、満足度に個人差が生じたことが計測上の問題点である。
指標2	防災施設の整備(道路整備)を行ったことから、住民の防災意識・活動啓発効果につながり、御代田町総合防災訓練参加者数が目標値の400人/年を上回ったため○とした。	
指標3	児童館整備により、児童館の機能やレクリエーション施設が充実した。児童館を整備したことにより、児童クラブで高学年を受け入れる態勢が整ったことから、平成28年度に大林児童クラブ、平成29年度に東原児童クラブの高学年受け入れを実施したため、児童館の年間利用者数合計は目標値である52,900人を50,041人上回ったため○とした。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	なし	なし
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	なし	なし
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した	なし	なし	なし
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
御代田町都市再生整備計画事業庁内検討会	企画財政課長、総務課長、町民課長、建設水道課長、企画係長、情報防災係長、こども係長、都市計画係長、建設係長	令和2年1月24日	企画財政課 企画係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3			
指標名		御代田町総合防災訓練参加者数		児童館の年間利用者数合計			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(塩野御代田停車場線)	◎	防災施設の整備(道路整備)を行ったことが、住民の防災意識・活動啓発効果につながり、総合防災訓練の参加者数が増加した。	-	児童館整備により、児童館の機能やレクリエーション施設が充実した。 児童館を整備したことにより、児童クラブで高学年を受け入れる態勢が整ったことから、平成28年度に大林児童クラブ、平成29年度に東原児童クラブの高学年受け入れを実施したため、児童館の年間利用者数合計は目標値である52,900人を50,041人上回った。		
	道路(塩野区内線)	◎		-			
	道路(上小田井雪窓線)	◎		-			
	道路(上ノ林児玉線)	◎		-			
	道路(久能梨沢線)	◎		-			
	道路(南浦3号線)	◎		-			
	道路(広戸御代田停車場線)	◎		-			
	道路(東林大林線)	◎		-			
	道路(児玉荒町線)	◎		-			
	公園(龍神の杜公園)	-		○			
提案事業	地域創造支援事業(大林児童館)	-		◎			
	地域創造支援事業(東原児童館)	-		◎			
	事業活用調査(事業効果分析)	-		-			
関連事業		-		-			
		-		-			
		-		-			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	防災施設の維持・管理を図る。	児童館施設の維持・管理を図る。		
-------	----------------	-----------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4				
指標名		通行の安全性や防災性など総合的な道路環境に対する満足度													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	道路(塩野御代田停車場線)	×	通勤通学及び各地区の避難施設までの歩行者の安全性の確保、災害時の緊急車両の通行を確保するため、道路整備を行った。道路整備した周辺住民からの評価は得られたが、町内全体に影響する幹線道路ではなかったため、町民の認識度が低く目標値を達成する回答は得られなかった。しかし、防災施設の整備(道路整備)が実施できたことや、アンケート調査の「満足である」と「どちらかといえば満足である」の回答者数は約6割を占め、過半数以上が満足しているという結果を得られたことから、一定の効果があったと判断している。	分類Ⅰ											
	道路(塩野区内線)	△													
	道路(上小田井雪窓線)	△													
	道路(上ノ林児玉線)	△													
	道路(久能梨沢線)	△													
	道路(南浦3号線)	×													
	道路(広戸御代田停車場線)	△													
	道路(東林大林線)	△													
	道路(児玉荒町線)	△													
	公園(龍神の杜公園)	-													
提案事業	地域創造支援事業(大林児童館)	-													
	地域創造支援事業(東原児童館)	-													
	事業活用調査(事業効果分析)	-													
関連事業		-													
		-													
		-													

※目標未達成への影響度

- × ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	今回整備を行った路線につながる未整備路線の整備を行うことで、本来の効果を発揮する路線や、交差点付近の用地交渉の難航により本来の効果を発揮できていない路線があるため、引き続き未整備及び未改修道路の整備を図る。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
御代田町都市再生整備計画事業庁内検討会	企画財政課長、総務課長、町民課長、建設水道課長、企画係長、情報防災係長、こども係長、都市計画係長、建設係長	令和2年1月24日	企画財政課 企画係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前のまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
安全な暮らしを支える防災性向上	防災施設整備が行われたことにより、住民の防災意識が向上した。	未改良の避難路線の整備。	なし
子どもが安全かつ健康・健全に育つ環境の整備	公園の園路の舗装及び児童館施設の増築・新築により、子どもたちが安全にかついきいきと育つことのできる環境が形成された。	公園大型遊具の更新。 児童館の増築・新築に伴い、想定以上に利用者が増加し、乳幼児スペース等が不足している。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	防災施設の維持・管理	・道路の適正な維持・管理を図る。 ・災害時に安全な避難ルートの維持・管理。	火山防災に係る広域避難計画の策定
	公園・児童館の維持・管理及び活用	・公園施設、児童館施設の適正な維持・管理を図る。 ・公園や児童館を活用したイベントを開催し、親子だけでなく地域住民同士の交流拠点の形成を図る。	児童館における3世代交流事業

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	未改良の避難路線の整備	未解決の課題となっている路線のうち、より効果を発揮し未達成の目標の達成に資する路線に重点的に投資を行い、早期の課題解決を図る。	道路整備・改修事業
	公園大型遊具の更新	遊具の安全基準を満たすよう適切な保全及び修繕を行いながら、有利な補助制度を活用して遊具の更新を行う。	公園大型遊具更新事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
		年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	通行の安全性や防災性など総合的な道路環境に対する満足度	%	9.0	H25	12.4	R1	確定 ●	9.8	△	あり ●	なし ●	→	R6.10	長期振興計画策定に係るアンケート調査	
指標2	御代田町総合防災訓練参加者数	人/年	360	H24	400	R1	確定 ●	550	○	あり	なし	→	なし		
指標3	児童館の年間利用参加者数合計	人/年	48,000	H24	52,900	R1	確定 ●	102,941	○	あり	なし	→	なし		
指標4							確定			あり	なし	→			
指標5							確定			あり	なし	→			
その他の数値指標1							確定					→			
その他の数値指標2							見込み					→			
その他の数値指標3							確定					→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・御代田町総合防災訓練参加者数、児童館の年間利用者数合計は、計画していた事業が完了し、目標値を達成することができた。	
	うまくいかなかった点	・総合的な道路環境の満足度については、計画していた事業は完了したが、道路環境に対して満足を得られなかったため、目標値を達成することができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・御代田町総合防災訓練参加者数、児童館の年間利用者数合計は、事業の効果が指標の改善に明確に現れている。	
	うまくいかなかった点	・総合的な道路環境に対するアンケート調査を実施する際、以前の調査と回答者が違うこと又、満足度に個人差があることがアンケート調査結果に現れている。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和2年2月3日～2月14日	令和2年2月3日～2月14日	担当課への電話、 FAX、電子メール等	企画財政課 企画係
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	企画財政課での閲覧	令和2年2月3日～2月14日	令和2年2月3日～2月14日		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	荻原 真一(都市計画審議会会長)	令和2年2月21日	企画財政課 企画係	御代田町都市再生整備計画事業評価委員会	御代田町都市再生整備計画事業評価委員会
その他の委員	池田 るみ(町議会町民建設経済委員会委員長) 内堀 隆久(児童福祉施設事業運営委員会委員長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1において、アンケート内容が分かりにくい、また、地区全体にアンケート調査を実施するのではなく、整備を行った地域に限定してアンケート調査を実施した方が良かったのではないかという意見があった。道路環境の満足度については、令和6年度に実施する長期振興計画策定のアンケート調査において、道路満足度について質問をし、フォローアップをすると説明し、委員の理解を得た。 ・指標3において、目標値52,900人を50,041人と大きく上回ったが、乳幼児スペースの確保や職員体制等まだ課題があるという意見があった。乳幼児スペースは、増築などの具体的な計画はないが、既存スペースを有効活用して課題を解消していきたいと説明した。職員体制については必要に応じて見直しを行っている」と説明し、委員の理解を得た。
	実施過程の評価	特になし。
	効果発現要因の整理	特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案は、町民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし。
	フォローアップ	フォローアップ計画については妥当であると確認された。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--